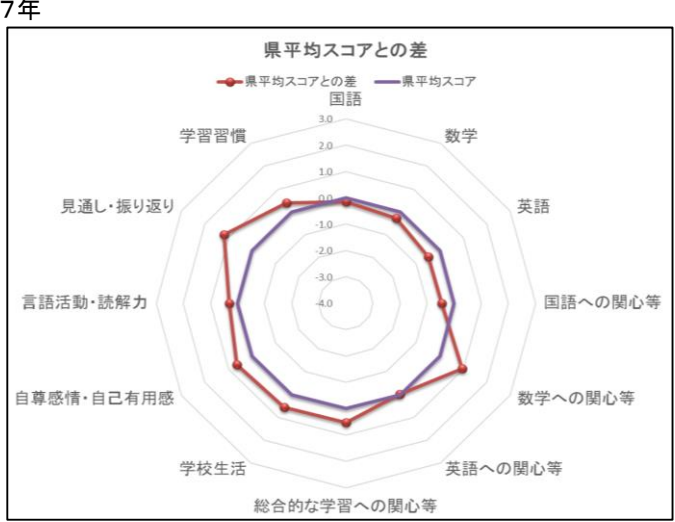


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立義務教育学校八束学園後期課程)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

|    |    | 成果と課題(○:成果、●:課題)                                                                                                                     | 対策                                                                                                   |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7年 | 国語 | ○「書くこと」の領域の正答率は県平均を上回っている。<br>○無回答率は県平均を下回り意欲的に解答している。<br>●2つ以上の文章や資料を組み合わせて考え、回答する問題に対し正答率が低い。                                      | ・文章や資料を見て「つまり・・・である」と端的に答える活動を取り入れ、段階的に長い文章の要旨をとらえられるようにする。                                          |
|    | 数学 | ○数学への関心は県平均を大きく上回っている。<br>○「図形」の領域は県平均を上回っている。<br>●「数と式」の領域の正答率が低い。<br>●「数学的な技能」の正答率が低い。                                             | ・朝学習の時間を設定し、「数と式」の範囲を中心とした計算問題に取り組む。<br>・授業の内容の振り返りがしっかりとできる家庭学習の課題を計画的に設定していく。                      |
|    | 英語 | ○「読むこと」については、授業の中で教科書の本文の概要についての発問をすることで、長文の概要を選んで答える問題では県平均を上回るものもあった。<br>●「聞くこと」については英問英答形式の正答率が低かった。<br>●「書くこと」の正答率が低く、無回答の生徒もいた。 | ・授業の中で、英問英答を取り入れ、英語での応答の仕方に慣れさせる。<br>・朝学習の時間を設定し、ドリルや自己表現作文等で英語を書く機会を増やし、英語を書くことへの抵抗感を減らしていく。        |
| 8年 | 国語 | ○「読むこと」の領域の正答率は県平均を上回っている。<br>○無回答率は県平均を下回り、問題形式に関わらず意欲的に解答している。<br>●文法問題の正答率が低い。<br>●条件に合わせて記述する問題に対し正答率が低い。                        | ・文法に関する小テストを定期的に行い、基礎知識の定着をはかる。<br>・条件を確認しながら書く活動を繰り返し行い、問いの条件を確認する習慣をつけていく。                         |
|    | 数学 | ○「図形」の領域は県平均を上回っている。<br>○授業の最後に振り返りの時間を設けているので、「見通し・振り返り」に対する肯定的回答が多い。<br>●「数と式」の領域の正答率が低い。<br>●「数学的な技能」の正答率が低い。                     | ・授業の最初に小テストの時間を設け、基本的な問題を反復練習し、できることを増やしていく。<br>・朝学習の時間を設定し、「数と式」の範囲を中心とした計算問題に取り組む。                 |
|    | 英語 | ○「聞くこと」は全体的に県平均と大きな差はなく、いくつかは県平均を上回っている。<br>○「読むこと」では、長文の読み取りは県平均を下回っているが、短い英文や対話文の読み取りは県平均を上回っている。<br>●「書くこと」の正答率が低く、無解答が多い。        | ・単元のまとめの活動等で、書く活動を中心とした表現活動を積極的に取り入れていく。<br>・朝学習の時間を設定し、ドリルや自己表現作文等で英語を書く機会を増やし、英語を書くことへの抵抗感を減らしていく。 |

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート

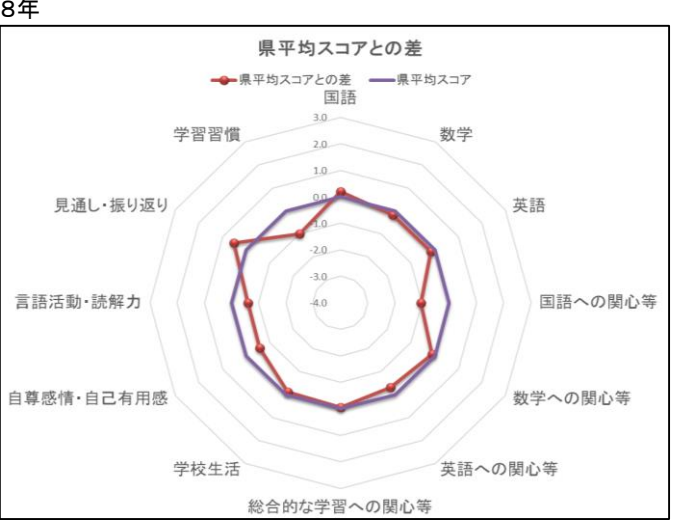


(参考) 平均正答率

|     |     | 国語 | 数学 | 英語 |
|-----|-----|----|----|----|
| 7年生 | 本校  | 64 | 33 | 55 |
|     | 松江市 | 68 | 41 | 65 |
|     | 島根県 | 67 | 38 | 64 |

受検者数  
7年生 25 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。  
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。



(参考) 平均正答率

|     |     | 国語 | 数学 | 英語 |
|-----|-----|----|----|----|
| 8年生 | 本校  | 69 | 36 | 54 |
|     | 松江市 | 67 | 43 | 58 |
|     | 島根県 | 65 | 40 | 57 |

受検者数  
8年生 27 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

|    |            | 成果と課題(○:成果、●:課題)                                                                                                        | 対策                                                                                                                    |
|----|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7年 | 授業改善に関わる事項 | ○授業での調べ学習、発表、話し合い活動をする機会は、県平均より肯定的回答が高い。<br>●活動については肯定的であるが、学習内容の定着に繋がっていない傾向にある。                                       | ・授業の諸活動については、今後も継続して行う。経年度研究の成果であるユニバーサルデザインによる授業改善の取組も継続していく。<br>・学習内容の定着に繋げるために、形成的テストや反復学習を行っていく必要がある。             |
|    | 家庭学習に関わる事項 | ○「家庭学習時間1時間以上」という回答が県平均より高い。「宿題をていねいに見て返している」という回答が県平均より高い。<br>●メディア接触時間が県平均より長い傾向にある。                                  | ・家庭学習習慣が定着している傾向にあるので、今後も継続して行う。<br>・学習内容の定着に繋がる家庭学習を充実させていく必要がある。メディア接触時間の改善のために「学習・生活チャレンジ週間」を充実させる。                |
| 8年 | 授業改善に関わる事項 | ○「授業で自分の考えを発表する機会がある」は県平均より肯定的回答が高い。「学校図書館を使って授業をするのが好き」という肯定的回答が県平均より高い。<br>●調べ学習や話し合い活動が県平均より低い傾向にある。                 | ・発表の機会は今後も継続的に取り入れていく。経年度研究の成果である一人一人にわかりやすいユニバーサルデザインによる授業改善の取組も継続していく。<br>・授業の諸活動については、話し合い活動など今後さらに取り入れていく必要がある。   |
|    | 家庭学習に関わる事項 | ○「宿題をていねいに見て返している」という回答が県平均より高い。「家庭学習時間1時間以上」という回答は個人差が大きい。<br>●メディア接触時間が県平均より長い傾向にあり、「家で授業の復習を行っている」という回答が県平均より下回っている。 | ・家庭学習習慣の定着は二極化している傾向にあるので、今後も継続してそれぞれに学習支援を行う。<br>・学習内容の定着に繋がる家庭学習を充実させていく必要がある。メディア接触時間の改善のために「学習・生活チャレンジ週間」など充実させる。 |

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

